

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
74	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Prospective study of alcohol drinking patterns and coronary heart disease in women and men. 飲酒パターンと冠動脈疾患発症の前向き研究	
執筆者	
Tolstrup J, Jensen MK, Tjønneland A, Overvad K, Mukamal KJ, Gronbaek M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMJ. 2006 May 27;332(7552):1244-8.	
キーワード	
飲酒パターン、飲酒頻度、冠動脈疾患、前向きコホート研究	
要旨	
<p>目的： 飲酒パターンと冠動脈疾患の危険度を男女で明らかにすること。</p> <p>方法： デンマークにおいて 1993～2002 年に調査開始時に心疾患を有しない 25052 名の男性と 28448 名の女性 (50～65 歳) を対象にコホート研究を行った。</p> <p>結果： 平均追跡期間は 5.7 年間であり、調査期間中に、男性 1283 例、女性 749 例の冠動脈疾患を観察した。冠動脈疾患の危険度は、週に 1 日以上飲酒する女性の方が週に 1 日未満しか飲酒しない女性よりも低かった。しかしながら、飲酒頻度については差はみられず、ハザード比は週当たり 1 日で 0.64、2～4 日で 0.63、5～6 日で 0.79、7 日で 0.65 であった。男性では飲酒日数と危険度の間に負の相関がみられ、週 1 日未満を対照とすると、週 7 日飲酒のハザード比は 0.59 であった。</p> <p>結論： 女性においては飲酒をするか否かが冠動脈疾患発症の決定因子であり、男性では飲酒頻度がより重要と考えられる。</p>	